

学校の教育活動から

〇充実している「校外学習」

先週は、28日(金)に2年生が、29日(金)に4年生がそれぞれに「校外学習」に出かけました。

2年生は「久留米市鳥類センター」に行き、鳥の色鮮やかさや大きさを目の当たりにして、「フラミンゴの色って綺麗だな!」「クジャクが羽を広げるとすごく大きいな!」と、実際に見て味わった感動を膨らませました。学校に戻って、その時に見た鳥に対する印象を現在、絵に表しているところです。



4年生は「福岡市民防災センター」に行き、消防体験や地震体験など、様々な災害や防災に関わる体験をしました。また、恵まれた晴天(ちょっと暑すぎたかな?)の中、ももち浜海浜公園での美味しいお弁当の昼食、福岡タワーからの展望など、心に残る1日になったことでしょう。



本校では、座学による学びばかりでなく、このような様々な「校外学習」による心に残る体験も充実させながら、子ども達の学びを深めていくようにしています。

感じたことから

〇「体験」と「経験」

「体験」と「経験」という言葉を使うときに、ついつい両者を混同してしまい、その意味合いの違いをあまり意識しないで使ってしまうことはないでしょうか?

実は、この二つの言葉には、それぞれに違いがあります。

「体験」… 実際の行為を通して 感じたこと。個別的、主観的。

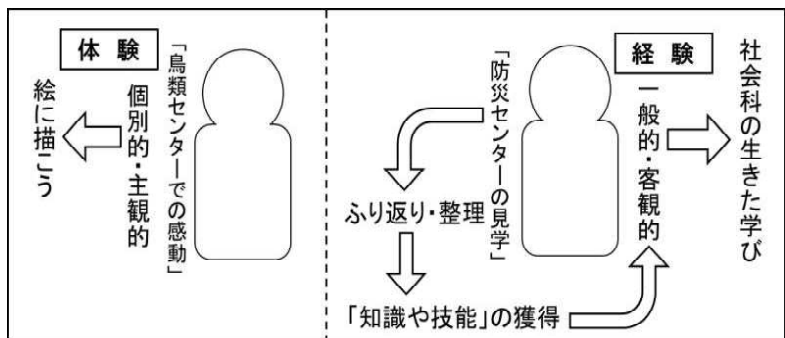
「経験」… 実際に見たり、聞いたり、行ったりすること。

また、それによって 得られた知識や技能 など。一般的、客観的。

さて、上記の2年生と4年生の2つの充実した「校外学習」ですが、「体験」と「経験」の側面から考えると、その意味合いは若干違ってきます。

「鳥類センターでの見学」の目的は、鳥を見て心に膨らんだ感動を絵に表すことにあります。けっして、たくさんの鳥を見て鳥類の特徴(全身が毛でおおわれ、羽があり、くちばしがあり...)を整理するためのものではありません。様々な鳥を見て感じた鮮やかさや雄大さ、可愛らしさは一人一人異なるものです。それは、極めて「個別的」「主観的」であることから「体験」として感じることが狙っています。

「福岡市民防災センターの見学」の目的は、災害の恐ろしさとそれらを防ぎ身を護るかについて、身をもって知識として理解を深めることにあります。そのためには、見てきたことを振り返り、整理することが大事です。すなわち「一般的」「客観的」な知識として身につけることを目的としていることから「経験」として深める必要があります。



このように、学校の教育活動で行う様々な校外活動は、その目的によって「体験」として感じるものか、「経験」として身につけるものか異なってきます。しかし、得てして、**せっかく「校外学習」に行っても集中できずに、ぼんやりしていて「体験」として心を動かすものを感じ取れないことがあります。**

また、「経験」として知識を得るためのものであるにもかかわらず、校外で活動して「楽しかった!」で終わってしまうこともあります。

これから先、それぞれの学年毎に様々な活動を実施していきますが、その目的に応じて、子どもたちの「体験」として、あるいは「経験」としての学びを深めていってほしいと思います。